

お取引先への復興と共に②

生産者の喜びは 出荷でき買ってもらえること

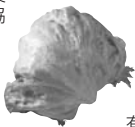
東日本大震災で被災されたお取引先へ、パルコープ・よどがわ市民協の役員と農産・水産の商品担当など6名がお見舞いかたがた訪問し、お話を伺いました。(8月19日・20日)



JAやさと
岩瀬さん

生産基盤を崩されて
くやしーと思っ

〔茨城県 JAやさと
有機栽培レタス〕などの
生産組合



有機栽培レタス

震災6、7月の揺れで農家の家屋などの被害も多く、JAやさとからも農協組合員2000棟以上に対して見舞金を出しました。原発から160kmも離れた東京からは60kmの距離だけでも、放射能検査の結果が出るまでは生産者にはいかんともしがたい状況。一生涯命やかってきた生産基盤を崩されて、くやしー思いをしています。生産者は丹精こめた作物が出荷でき、買ってもらえることが大きな喜びです。

(有機栽培部会長 岩瀬直孝さん)



多古町旬の味
産直センター
高橋さん

(代表理事・高橋清さん)

福島県からの若手生産者も
受け入れ 一緒にがんばります

〔千葉県 多古町旬の味
産直センター(しんのみ
野菜セット)などの
生産組合



しんのみ野菜セット

このあたり
でも田んぼが
液状化したり、
3日くらい停電した
ためにハウスの暖房が止まり果
菜類に被害が出た農家もありま
した。関東圏の生協の精米加工
所が使えなくなり、代わりに大
量の精米をフル稼働で行ったり
もしました。

今の時期、雨の量も作柄もほ
ぼ順調にきています。農業を続
けたいと福島から避難してきた
若手生産者を受け入れ、多古町で
畑を貸与と一緒に農業を始め
ました。風評被害の影響を生産
者は不安に感じています。お
米はほつれん草の残留放射能事
前検査もすみだしてありますの
で、安心して出荷していきたい
です。

～ 岩手 被災地ボランティア 活動 ～

〔第2期第3陣〕9月3日～9日 支所職員など10名 (内よどがわ生協の方2名)

山崎さん(住宅サービス)、友江さん(システム経理部)、福田さん(商品部)、
西岡さん(よどがわ生協)、中村さん(よどがわ生協)、尾崎さん、樋口さん、天野さん、亀田さん、多田さん



(南煙屋川支所で門
真市と守口市の担
当樋口さん)

「カフェ隊」活動に参加
仮設住宅の方などにお声を
かけました。継続的にこのよ
うな地域でのコミュニケー
ションの場を提供すること
で、地域の輪もひろがりを作
ることができると思っています。



(人事総務部・多田
さん)

大槌町の野外交流施設で、
遠足にきた小学1・2年生の
子どもたちと「ジャイアン」
というニックネームで打ち
解け、手足がアザだらけにな
りましたが、子どもも笑顔を見
てみると、子どもも1日が終
わりました。親と離れて住ん
でいる子や、学校が流されて
違う小学校に通いまだ馴染
めていない子...「子どもな
がらにも、いろんな光景を見
たり経験している」とスタッ
フから聞いて心が痛みまし
た。



(大東支所で四條
巖市の担当・尾崎
さん)

実際に見た大槌町は、何も
言えずにただ見るだけでし
た。こんな被害にあわれた方
に対し、接し方をどうしたら
良いかすごく不安でした。仮
設住宅に物資支援に行き、
大阪の組合員さんの気持ち
で作った台所セットもらっ
てください」と伝えると、快
くもらってくれて、僕の行動
より、大阪の組合員さんの気
持ちに対して笑顔を頂けま
した。大阪の組合員さんの
気持ちをもっと伝えようと
次へ行動しました。



(港支所で港区の
担当・天野さん)

陸前高田市に物資の配達へ
行きました。初めて見る被害
の大きさに衝撃を受け、「被災
者の方と会話するのが辛い」
と常駐の林さんに相談する
と、お金の支援も大切だが、
こつやって人が来てくれると
いうことはお金ではない大
切なことだと思つて住民の方
は接してくれているという
事でした。



被災者に寄り添い、 絆をつなげる活動を



岩手では秋の深まりも早く、山あいの仮設住宅では暖房器具が朝晩フル稼働のところも出ています。震災後、7カ月が経過します。この間、遠野まごころネットで飛び交う会話は「全国的には記憶の風化の兆しが...」被災地ではまだまだボランティアの力が必要です...と。

まごころネットでは「仮設住宅での困りごとに対して、支援団体の得意分野をつないで解決する「連携プレー」がもっと必要!」と話し合いを進めています。

5月からのパルコープ職員ボランティアは、第20陣目(第2期第8陣)になりました。収入が絶たれた被災者の方々に、まごころネットの資金が許す範囲で、野菜や日用品など生活物資を届けながら「見守り活動」のタスキをつないでいます。

(NPO遠野まごころネットに常駐する
事務局・林さんより)



利尻昆布と社員が
無事でした

〔千葉県 ヤマハイフーズ
(利尻昆布漬しまほっけ)
などのメーカー)
などのメーカー



利尻昆布漬しまほっけ

震災5の揺
れの後、3回
目の大きな津
波により工場内
が1m浸水。ちよ
うど外でトラックに積み込んで
いるタイミングで、全員で逃げ
ただけ逃げたので、出荷中の商品
は全て流されてしまいました。
復旧させた冷凍庫の中にも海
水が入っていて、1mの高さで
凍結。水を割りながら片付けま
した。泥水の海水に浸かった製
造ラインは、掃除しても修復
できずほとんどを新しいライン
に買い換えました。幸いだった
のは、1年半以上寝かせて旨味
成分を増やした利尻昆布が無事
だったこと。12日後からは、商品
製造を再開できました。

震災後は、また大きな災害が
製造を再開できました。



海水に浸かって使えなくな
った製造ライン
(ヤマハイフーズ)

被災された東北の生協とお取引先へ、 お見舞金をお届けしました (敬称略)

- 7月28日: いわて生協、みやぎ生協、アマタケ
- 8月19日: 共立生協(山形県)、福島生協連合会、
コープ茨城、ヤマハイフーズ、
多古町旬の味産直センター、JAやさと
- 8月29日: 阪神低温(東北の自社工場が被災)
- 9月1日: 全漁連
(三陸一帯の原料や協力工場が被災)

(水産担当 古堤辰巳さん)

あるんじゃないかと今でも身構えて、会社のことだけは何より命が大事だと思つたことになりました。稼働率は震災前の85%くらいにしか戻ってきません。いけど、社員に無理をさせているじゃない、目の届く手の届く範囲で責任を持つて仕事をしたいと思つています。

(社長・土佐智男さん)